

ぐんま東毛労基通信

	TEL	FAX	QR
太田労働基準監督署	0276-45-9920	45-5573	 太田協会
労働基準協会			
太田労働基準協会	0276-46-5774	46-1544	 館林協会
館林労働基準協会	0276-72-8890	70-7622	
大泉労働基準協会	0276-20-1112	20-1113	 大泉協会

目 次

太田監督署管内の労働災害発生状況	2
会員訪問 東亜薬品工業株式会社 館林工場	3
令和8年度技能講習等の実施について	4・5
協会だより 令和7年度署長表彰及び協会長表彰が決まりました	6
12月・1月の講習・教育のご案内	6

令和7年 年間標語

安全は 働くみんなでつくるもの
働くみんなを守るもの

高い技術力と開発力で医療・動物医薬品の製造・販売等を展開する、プロバイオティクス製剤分野における国内屈指の企業。

東亜薬品工業株式会社(代表取締役増田智英社長)(以下「東亜薬品工業」)は、医薬品・医薬部外品、動物用医薬品、混合飼料などの製造・販売を手がける製薬会社です。創業以来77年以上にわたり、確かな技術と品質を追求し続け、医療現場や畜産分野に幅広く貢献しています。館林工場は、研究開発と生産の中核拠点として、同社の技術力と革新性を支える重要な役割を担っています。



〈商品の一例〉

東京で創業、館林へ

1941年(昭和16年)11月、東京都渋谷区にて、創業者・増田盈(みつる)氏が「東亜薬化学研究所」を設立。咳止め薬などの製造を開始しました。1948年に法人化し、社名を「東亜薬品工業株式会社」に改称。1968年には館林工場を竣工し、現在に至ります。

東京に近いこと、造成された工業団地内に広大な敷地を確保できたことが、館林進出の決め手となりました。

愛され続ける「ビオスリー」

1963年に発売された活性生菌製剤「ビオスリー」は、腸内環境を整えるため、働く場所や効能が異なる生きた3種の生菌をバランス良く配合した医薬品です。発売から60年以上経った今もなお、医療現場や腸内環境を気遣う人々から高い支持を得ており、同社の主力製品として位置づけられています。

医療用から一般用、さらには動物用医薬品や飼料への添加まで用途を拡大。世界初の生菌製剤OD錠(口の中で簡単に溶け、水なしで飲める錠剤)の開発にも成功し、同社の製剤技術の高さを示しています。

館林工場には研究部門が併設されており、大学や医療機関との共同研究も積極的に推進しています。近年では、腸内フローラと免疫機能の関係性、腸内フローラの乱れに起因する早産リスクの低減の可能性などについての研究が進められています。

群馬労働局長表彰

本年7月、東亜薬品工業は群馬労働局長より「労働安全衛生優良事業場」として、奨励賞を受賞されました。



〈防災訓練の様様〉

安全衛生委員会の定期的開催、安全パトロールの実施、危険予知訓練やヒヤリハット活動、不安全行動防止活動、化学物質管理のリスクアセスメントなどの安全衛生活動の積極的な取り組みにより、170万時間を超える無災害記録を達成したことなどが高く評価されました。

同社は医薬品GMP(適正製造規範)という厳しい基準に従って医薬品を製造しています。GMPは単に最終製品が規格に適合していることを確認するのではなく、



〈館林工場全景〉

原料調達から製造、検査、出荷に至る全行程において手順を定め、恒常的に安全で有効な製品を届ける仕組みで設備とソフト(管理体制)の双方が基準を満たさなくてはなりません。そのための日々の努力が、安全衛生の向上にも良い影響を与えていると思われます。

何故、そうするのか

GMP基準に則り、手順に従って作業をする中でも、医薬品の安全性及び品質をさらに向上することを目指しています。

従業員一人一人が「何故、そうするのか」と問い直し、「何ができるか」を考え提案する改善制度を活性化しています。

毎年開催されている「改善発表会」では、各グループから多くの提案が寄せられ、創意工夫に満ちたモノづくりが展開されています。その中で、ヒヤリハット活動や不安全行動防止活動をベースに、労働災害発生の原因となる危険源に対する改善も行われています。

東亜薬品工業は、プロバイオティクスのリーダー企業として、将来にわたり、多様な分野で社会に貢献し、益々発展されていくことでしょう。

取材対応

取締役館林事業所長 嘉悦 厚 様
生産統括本部長 山田 博之 様
第一製造部長 兼 館林総務部長 上松 義彦 様
館林総務課長